

❖ 科目名 Course Title			
ポピュラーカルチャー論			
❖ 担当教員 Instructor			
春木 有亮			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	2
❖ 履修可能人数 Capacity	120	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ キーワード Key Words			
ブルーズ、カントリー（カントリー）、フォーク、ジャズ、ロックンロール、ロック、フォスター、ビートルズ、ボブ・ディラン			
❖ 授業の目的 Course Objectives			
たとえば、「ロック」とはこういうものなのか、と反省すること。			
❖ 授業概要 Course Description			
<p>なぜ「音痴」でも、音楽を楽しむことができるのか。それは一つの音、一つの曲が、「楽譜」で表される以上の多彩な、かつ多重の「イメージ」をまとっているからです。たとえば乃木坂46の曲を聴くときに、そのメンバーの顔や肢体を、思い浮かべないことは、むしろむずかしい。つまりわれわれは、つねに、いま聴いている音のなかに、その音以上のなにかを聴く、どころか、なにかを見てさえ、います。音楽を楽しむとは、音自体、というよりは、音にまわりつくイメージを消費することであると言えるでしょう。</p> <p>なぜ、カフェやバーには、よく「ジャズ」が流れているのか。《カントリー・ロード》の「カントリー」とは、どこなのか。なぜ「ロック」と言えば、「熱い」のか。「ロックンロール」と、どうちがうのか。本授業では、こうした問いを軸に、アメリカのポピュラー音楽の成立の、過程と、そのねじれた構造を、膨大な映像資料とともに、紹介します。*生演奏あり。</p>			
❖ 到達目標 Course Goals			
「ルール」を守らなければならない、と思わないこと。			
❖ 授業計画 Course Schedule			
<p>第1回：なぜ「音痴」でも「音楽」をたのしめるのか。</p> <p>第2回：なぜフォスターは、黒人をさげすんだり、さげすまなかったり、するのか。</p> <p>第3回：なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。1</p> <p>第4回：なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。2</p> <p>第5回：《カントリー・ロード》は「カントリー」か。</p> <p>第6回：なぜ「フォーク」歌手は、貧乏くさいのか。</p> <p>第7回：なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。さらに言えば、なぜジャズを演奏する大学生のサークルは、しばしばジャズ研なのか。1</p> <p>第8回：なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。さらに言えば、なぜジャズを演奏する大学生のサークルは、しばしばジャズ研なのか。2</p> <p>第9回：なぜ「ロックンロール」は、おっさんくさいのか。</p> <p>第10回：なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。1：ビートルズとは、なにか。</p> <p>第11回：なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。2：ビートルズとは、なにか。</p> <p>第12回：なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。2：ボブ・ディランとは、だれか。</p> <p>第13回：なぜ「シンガー・ソングライター」は、しょうもないのか。1：ピアノ・マンとギター少女</p> <p>第14回：なぜ「シンガー・ソングライター」は、しょうもないのか。2：ギターの衰退と1980年代</p> <p>第15回：なぜ「シンガー・ソングライター」は、しょうもないのか。3：「アコースティック」の1990年代</p>			
❖ 成績評価 Grading System			
受講者の生きざまに即して、受講者を評価します。講師に、生きざまを見せてください。見せる方法は、問いません。			

❖ テキストTextbooks
講師が準備します。
❖ 参考書Reading List
授業中に示します。
❖ 連絡先 (E-mail) E-mail
haruki@mail.kitami-it.ac.jp
❖ 質問・相談への対応方法Contact Information
質問(者)ごとに、よいしかたで(たとえば、メールを書いたり、授業で話すなどして)、対応します。
❖ 履修上の注意Notes
ドリンク、フード、教室にもちこみ自由。履修上の問題があれば、すぐに講師におしらせください。しらせられないひとは、しらせられないことを、しらせてください。実存をかけて履修してください。
❖ 備考Other Information
コメント:ぼくを喜ばせてください。おもしろがらせてください。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。